



設立趣旨

CBGM こども財団は、こどもたちを巡る貧困、虐待、いじめ、孤立などの課題解決ならびに教育、芸術文化などの振興・支援に取り組んでいる諸団体への助成・寄付等を目的として設立されました。環境問題や教育格差、自然災害など、不安定要因が増す中で、社会が健全な発展を続けていくためには、こどもたちが健やかに成長し、幾多の困難を克服して未来を切り開いていくことの支援が重要であるとの認識の下に活動を推進しています。



©Naomi Kojima

財団設立の趣旨にもありますように、

私たちは財団の活動を通して「子どもたちの健やかな成長」に寄与していくことを目的としています。

子どもを取り巻く問題は、今なお多くあり、より深刻化しています。

わたしたちは、一人ひとりの子どもを取り巻く課題に向き合い、

子どもに寄り添った支援に取り組む団体をサポートできるよう、尽力してまいります。

財団は新体制で稼働を開始しました

2026年1月1日より、CBGMこども財団は事務所を青山から六本木に移転し、新体制のもと稼働を開始しました。新しいオフィスはセキュリティが厳しく、安全管理が徹底しています。当ビルに入館するには入館証(QRコード)が必要となり、事前にお名前・メールアドレス・来訪日時を申請すると、その入館証が発行されます。申請は事務局がいたしますので、新しいオフィスにお越しの際は、スタッフにご一報ください。お待ちしております。

2026年度 第5期助成事業の応募を開始しました

2026年4月1日より、第5期助成事業の応募を開始し、5月15日に締切りました。2026年度の助成金は、総額3,300万円(事業計画より300万円増)、1件200万円以内です。応募対象は、東京都内に登記のあるNPO法人等で、こどもたちを巡る貧困、虐待などの課題解決や、教育、芸術文化などの振興・支援に関する事業です。今回は、昨年を上回り、総数で57件の応募がありました。6月中旬より選考を開始しており(6月16日に選考委員会開催)、8月の理事会で採択が承認される予定です。

2025年度 第4期助成事業

2025年4月1日より、第4期助成事業を推進しております。2025年度の助成金は総額3,000万円、32団体に助成いたしました。助成対象は東京都内に登記のあるNPO法人等で、こどもたちを巡る貧困、虐待などの課題解決や、教育、芸術文化などの新興・支援に係る事業です。継続して活動中の団体もありますが、既に活動を終了し、報告書を提出いただいている団体の中から、いくつかその活動をご報告いたします。

助成先活動報告 1

特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ

【 キャンプカレッジ 2026 次世代リーダー主催イベント 】

2026年3月20日(金)～22日(日) 湘南国際村センターにて「キャンプカレッジ」が開催され、財団事務局が見学に行ってきました。2025年秋より活動が始まった「次世代リーダー育成事業」で、選考された4名の高校生リーダーたちが約半年間かけて企画・準備を行い、3月21日に小児がん経験者の子どもたちとそのご家族を対象にイベントを開催。高校生リーダーたちは、小児がんや重い病気の経験者、またはきょうだいとして過ごした経験を持っています。今回の活動を通して「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで協働する力」を育みながら達成感を得る機会となりました。毎年実施しているキャンプカレッジのこともリーダーとして、これからも活躍してもらえるように育成していくことを目指しています。

一方、イベントに参加した小児がん経験者の子どもたちは、一見普通の小・中学生と変わらない様子ですが、疲れやすいといった身体の問題に加え、発達の遅れや孤立（友達ができない、悩みをわかってくれない）などの悩みを抱えているといわれています。また、病気という困難な経験から同世代と比べて成功体験が少なく、自己肯定感が低いという課題も指摘されています。この活動では、自分のことをわかってくれるお兄さん、お姉さんがいることが心のケアに繋がり、「いつか自分もリーダーをやりたい」という期待感を醸成していきます。財団ではこの活動を4年間継続して助成していますが、高校生リーダーたちが自身の経験を活かして活動に取り組み、着実に成長している姿がとても頼もしく、支援の成果が伺えました。



2026年3月21日 湘南国際村センターにて



思い出になるものと高校生たちが考えた企画の一つ



リーダーと子どもたちが数チームに分かれてクイズやミッションに挑戦！

参加した子どもたちの声 (シャイン・オン・キッズプレスリリースより)

楽しすぎたからまたやりたい！！

リーダーやボランティアさんに
たくさん助けてもらい、上手に作れて嬉しかった

高校生リーダーの声 (事業報告書より)

自分の意見を積極的に言えない
過去の自分から脱却できた

自分の殻を破ることができた

[動物介在療法のご紹介] ホスピタル・ファシリティドッグ® プログラム

シャイン・オン・キッズは小児がんや重い病気の子どもたちとそのご家族の“心のケア”のプログラムで支援活動をしています。その代表的な活動の一つ「ホスピタル・ファシリティドッグ® プログラム」(動物介在療法)があり、小児総合医療施設4施設にて動物介在療法として導入されています。

シャイン・オン・キッズのホスピタル・ファシリティドッグ®は、医療チームの一員として特定の病院にハンドラー(ペアを組む臨床経験のある看護師)と共に常勤します。

ホスピタル・ファシリティドッグ®が寄り添うことにより、小児がんや重い病気の子どもたちが治療を前向きに捉え、自尊心を保てるよう、子どもたちとその家族の生活の質の向上を目指す活動です。

同じ犬がいつもそこにいて多くの時間を繰り返し過ごせることが、入院治療している子どもたちの心の励みになっています。



画像提供: シャイン・オン・キッズ



そのホスピタル・ファシリティドッグ®のトレードマークともいえるベストは、これまで海外製のものを使用してきましたが、現場からの改善を望む声を受け、シャイン・オン・キッズと(株)モンベルが共同開発しオリジナルベストができました。

2026年2月5日(木)に港区高輪で、「ホスピタル・ファシリティドッグ®用ベストを開発」のプレス発表会があり、財団はこのプログラムには直接助成はしていませんが、助成先の活動として、また他企業の事業を理解するために、財団事務局が見学してきました。

会見では、ホスピタル・ファシリティドッグ®候補犬がオリジナルベストを着用して登場し、また開発背景やファシリティドッグの紹介、闘病中の子どもによるスピーチが行われました。

プレス発表会にて
画像提供: モンベル

つらい治療に向き合いながら長い入院生活を送る子どもたちの精神的支えになっていることから、ファシリティドッグの需要は増加傾向にあるとのことでした。一方、育成には素質のある犬の確保や1チームの育成に2、3年かかること、ハンドラーの採用・育成等にかかる費用が課題になっているとのことでした。

詳細はコチラをご覧ください。

[ファシリティドッグ・プログラム – Shine On! Kids](https://sokids.org/ja/what-we-do/hospital-facility-dogs/)

<https://sokids.org/ja/what-we-do/hospital-facility-dogs/>

助成先活動報告 2

認定 NPO 法人 ミュージック・シェアリング

【ICEP (インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム) カンボジア 2025】

五嶋みどりさん率いる若手演奏家とのカルテットが、カンボジアを訪れ、教育機関、病院、児童・障がい者・若者の家などの施設の子どもたちと地域の人々へ、生のクラシック音楽を届け、本物の音楽を通して豊かな心を育む「ICEPカンボジア2025」の活動に、CBGMこども財団は2025年度の助成活動として支援いたしました。

その活動報告コンサートが2026年6月17日(水)銀座の王子ホールで開催され、財団から理事長 児島誠一郎と選考委員の児島なおみが招待されました。

当日はカンボジアでの活動報告の後、実際に現地活動に参加された五嶋みどりさん(ヴァイオリン)、ヘリム・オさん(ヴァイオリン)、アンディ・パクさん(ヴィオラ)、アネット・ヤコヴチッチさん(チェロ)4名の演奏家によるコンサートが行われました。



「6月17日 活動報告コンサート」
ミュージック・シェアリング HPより

児島理事長からの感想

世界で活躍する演奏家の皆さんの演奏は大変素晴らしかったです。子どもたちへ生のクラシック音楽を届けることで、日常生活の中で少しでも心が豊かになり、夢を抱くきっかけになればと思いました。音楽を通じた社会貢献活動の重要性を改めて感じるとともに、真の音楽家のあるべき姿を実感することができました。

五嶋みどりさんと若手演奏家の皆さんはカルテットを結成し、2025年12月15日～26日にカンボジアを訪れ、現地団体と協働し、学校・病院・施設など18団体を訪問しクラシック音楽のコンサート・楽器体験や交流を行い、約2,000名が参加されました。

また、2026年6月には同メンバーが日本でも学校、病院、施設において「訪問コンサート」を行い、カンボジア訪問での経験や演奏を日本国内で発信されました。本助成の対象活動ではありませんが、財団事務局は外部評価員として、2026年6月18日、品川区の伊藤小学校での訪問プログラムに参加しました。4名の演奏家が子どもたちと同じ体育館のフロアで身近で演奏され、また支援学級の子どもたちも一緒に楽しんで拍手していたのがとても印象的でした。

子どもたちにとって、本物の音楽・生演奏に触れることは貴重な体験だったと思います。この体験から、将来五嶋みどりさんのような素晴らしい演奏家が生まれれば・・・と期待してしまうようなプログラムでした。

活動報告書の詳細はコチラをご覧ください。

ICEP 2025 カンボジア 活動報告書

<http://www.musicsharing.jp/activity/icep/pdf/icep2025.pdf>

五嶋みどり理事長から

「ICEP2025カンボジア活動報告書」より転載

プノンペンの新しく近代的な空港から飛び立つ飛行機の中で、さまざまな思いがこみ上げてきました。カンボジアを訪れたのは今回で3度目でした。最初は2007年、次いでパンデミック直前の2019年、そして2025年12月に再びこの地を訪れ、大きな変化と変わらぬ姿の両方を感じる滞在となりました。

2007年に訪れた団体を再び訪問できたことは、感慨深い出来事でした。ICEP開始間もない2年目の訪問だった当時、目の当たりにした生活環境には強い衝撃を受けました。ごみの山の強烈な臭いは、今も記憶に残っています。2019年には、Helping Handを訪問し、スラムで育ったすばらしい女性チャンティ・チェンと、彼女の生徒たちに出会いました。

当時出会った子どもたちは、いまや家庭を持つ社会人へと成長しています。私の再訪を知り、足を運んでくれた人もいました。置かれた環境にとらわれることなく歩みを進めながらも、なお私のことを覚えていてくれたことに、深い感慨を覚えました。

プノンペンの街も著しい変貌を遂げていました。かつては静かで閑散としていた街は、いまや交通量が増え、高層ビルが立ち並び、インターネット環境も整い、活気あるカフェやレストランが軒を連ねています。発展は街の随所で感じられます。

それでもなお、変わらない現実もあります。人身取引から救出された女性たちや、貧困や恐怖の中に取り残された人々など、支援を必要とする人たちは、今も存在しています。確かな前進がある一方で、いまだ癒えない傷も残されています。

今回の訪問でとりわけ印象深かったのは、NPOスロラニユを通じて障がいのある子どもたちの支援に取り組む近藤さんの活動に触れたことです。彼が語る文化的・経済的な背景は理解できるものの、重い障がいを持つ子どもたちの姿をほとんど見かけない理由を知ると、やはり胸が痛みます。

彼に同行して家庭訪問に参加した経験は、深く心に残るものでした。静かに寄り添い、相手を尊重するその姿勢は、善意が必ずしも目立つ形で示される必要はないということを教えてくれます。こうした日々の取り組みは目立つものではありませんが、一人ひとりの子どもと家族の生きる世界を、静かに変えていく力を持っています。

カンボジアを離れるにあたり、私は感謝とともに、胸の奥に残る痛みのような思いも抱いています。目にした人々の強さ、再び出会えた若者たち、そして共に旅をした若い音楽家たちとの時間——そのすべてが深く心に刻まれています。

街は変わり、人は成長し、社会は前に進み続けます。それでもなお、変わらず最も大きな力を持ち続けるもの——それは、人と人とのつながりです。



ハガー・インターナショナルが支援する学校の教室訪問



楽器体験



シェムリアップ近隣の家庭を訪問



2025年12月16日に訪問した、JHP・学校を作る会にて

※写真は事業報告書より

トピックス

「こども性暴力防止法」が施行されます

財団の理事・選考委員である小澤いぶきさんより、2026年12月25日から、「こども性暴力防止法」が施行されるという情報をいただきました。小澤さんはこども家庭庁のアドバイザーも務めています。

背景としては2023年4月に、こども基本法が施行され、こどもの権利を基盤とした実践が少しずつ広がってきました。また、今年12月には「こども性暴力防止法」(日本版DBS)が施行されることになり、こどもと若者のセーフガーディングの取組が広がっていくことが期待されます。

この制度は、こども家庭庁管轄の下、こどもの安全を確保し、性犯罪を防止する措置の一つとして、対象となる事業者に対して、こどもに接する仕事に就く人について、性犯罪歴の確認を義務付けるものです。

学校や保育所、学習塾など、こどもに対して教育・保育などを行う事業者には、性暴力を防ぐための取組が求められます。こどもたちが大人から勉強やスポーツなどを教えてもらう場所、保育などを受ける場所、そこでこどもに接して働く人たちが「こども性暴力防止法」の対象になります。

事業者求められる取組

- 日頃から、こどもを性暴力から守る環境づくりを進めます。
- こどもと接する業務に就く人に、性犯罪前科の有無を確認します。
- 性暴力のおそれがある場合は、こどもと接する業務に就かせないようにします。

こどもが安心して教育や保育を受けられる社会へ向けて、財団もこの取組に注力していきます。

こどもの権利に根ざし、こどもを守る環境づくり・セーフガーディングを導入しながら進めていける体制づくり、活動を支援していきたいと考えます。

詳細はコチラをご覧ください。

こども性暴力防止法について(国民向けリーフレット)

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/80127231-8582-476e-a6e7-9347e725ed96/8ed72261/20251225_policies_child-safety_efforts_koseibouhou_12.pdf

こども基本法 | こども家庭庁

<https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-kihon>

